

皮膚科のトリビア

177

浅井 俊弥
Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

〒240-0013 横浜市保土ケ谷区帷子町1-14

<http://www.asai-hihuka.com>

本欄は、小誌編集委員の浅井先生が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

●第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

平成31年4月20日

基底細胞癌のダーモスコピー所見のまとめ

基底細胞癌はダーモスコピーによる診断の精度が高い。いくつかの基準のうち、車軸状領域と葉状領域はとくに特異度が高い。多発性青灰色小球、青灰色類円形大型胞巣は感度が高い。さらに潰瘍化と樹枝状血管、光輝性白色領域も基底細胞癌に特徴的である。血管は長い血管がみられれば真皮内病変、短い血管が主体であれば表皮内病変と考えられる。

一言コメント

「それぞれの所見は教科書で確認しておこう。基底細胞癌と臨床的に診断されて提出される病理検体が、ダーモスコピーの普及前に比べて普及後には明らかに小さくなっているという。すばらしい進歩だと思う。」

●第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

平成31年4月21日

皮膚科における地域包括ケア病棟の利用法

地域包括ケア病棟は、複数の疾患を有する高齢者に対する医療体制として構築された。70%の在宅復帰を要件として、疾患に関係なく入院料は60日間まで算定できる。皮膚科としては、1)褥瘡、熱傷などの手術とその後の外用治療にある程度の入院期間と機能回復を必要とする場合、2)下肢の蜂窩織炎など、運動器疾患の側面を持つ皮膚疾患で入院し、廃用に対するリハビリが必要な場合、3)水疱性

類天疱瘡などでステロイドや免疫抑制の調整に時間を要する場合。

一言コメント

「急性期病棟では皮膚疾患の経過をじっくりみることがむずかしくなっている。若い皮膚科専攻医が臨床の経験を積むのにも、地域包括ケア病棟は適しているとのこと。時代は変わってきている。」

●第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

平成31年4月21日

ダナゾールによる遺伝性血管性浮腫(HAE)の長期予防

腹痛が主訴で受診した30歳代女性。C1-INHの欠損が証明されてHEAの診断に至った。その後ダナゾール内服で発作がコントロールされていたが、肝臓超音波の定期検査で限局性の結節を認めたため、ダナゾールを中止。その後発作が再燃した。C1-INH製剤の投与で速やかに症状は改善したが、同時にダナゾールの有効性を再認識した。

一言コメント

「日本補体学会による『HAEガイドライン改訂2014年版』では、HAEの長期予防は、1)トラネキサム酸：30～50 mg/kg/日を1日2、3回に分けて服用、2)ダナゾール(テストステロン誘導体)：200 mg～400 mg/日を1カ月、その後100 mg/日を1カ月、50 mg/日または100 mg/隔日へ減量する。禁忌は小児、妊婦、授乳中、癌患者とのこと。知らなかった。」

●第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

平成31年4月21日

日本紅斑熱の集計

日本紅斑熱は *Rickettsia japonica* が原因でマダニによって媒介される。潜伏期は2～8日とツツガムシ病より短く、発疹は四肢から体幹に広がり、刺し口は小さいなどの傾向がある。2007～2016年には全国で1,765例の報告があり、三重県が最多、次いで広島県、和歌山県、熊本県、鹿児島県、愛媛県と続く。5～10月にかけて増加し、マダニの活動時期と一致する。愛媛県ではヤマアラシチマダニ、キチマダニの刺症後に発症することが多い。第4類感染症で全例報告が必要。

一言コメント

「診断したことがないが、ツツガムシ病と同様に発熱、発疹をみたら、刺し口がないかを探すことは念頭に置く必要がある。治療はリケッチア症なのでテトラサイクリン系の抗菌薬が有効。ただちに投与すること。」

●横浜市医師会医学研修の日から

令和元年5月21日

アトピー性皮膚炎乳児の離乳食の進め方を変えたPETITスタディとは

生後4カ月までにアトピー性皮膚炎を発症した乳児121人を対象とした二重盲検ランダム化プラセボ対照試験で日本から『Lancet』に掲載された。6カ月から卵入り粉末を食べさせる乳児61人と、まったく食べさせない乳児60人に分け、1歳の時点で鶏卵アレルギーの発症率を検討。卵粉負荷群は5/60(8%)であったが、非負荷群では23/61(38%)であった。この結果を受けて、日本小児アレルギー学会は、「皮膚炎に罹患した乳児では、鶏卵アレルギー発症予防を目的として、医師の管理のもと、6カ月から鶏卵の微量摂取を開始することを推奨する」という提言を発表した。

一言コメント

「具体的には6カ月から9カ月までは固ゆでの卵粉50 mg/日を、9カ月から12カ月までは250 mg/日を与えたという。卵粉50 mgは卵0.2 g相当とのこと。固ゆで卵を1時間放置し、卵白と卵黄を外し、卵白がうっすらついている卵黄部分を米粒5～10個分与え

ると0.2 gになるらしい。親に相談されたら、ベネッセの「たまひよ」*というサイトを紹介するとよい、とのこと。」

*参照：<https://st.benesse.ne.jp/>

●某製薬会社Web講演会から

令和元年5月29日

18%グレーの法則と露出補正

きれいな臨床写真の撮り方の話。現在のカメラに内蔵されている露出計は反射式露出計といい、被写体の側で測光する必要がない代わりに、被写体の色(反射率)がまったくわからないという、最大の欠点がある。被写体が黒でも白でもひたすらレンズから入った光の強さだけを測り続ける。自動的な調整をその都度行うわけにはいかないので、撮影する被写体をすべて「反射率18%のグレー」としてカメラの露出を決めている。そのために、実際の被写体の反射率との差を露出補正しないと、露出オーバーや露出アンダーになってしまう。白い被写体は+に補正、黒い被写体は-に補正する必要がある。

一言コメント

「カメラにはEVという単位があって、露出をコントロールする3つの要素である絞り・シャッター速度・ISO感度はこの単位が元になっている。明るさは、1EV減らすごとに、1/2→1/4→1/8→1/16と減っていく。一番明るいところが100%、それが1EV減らすごとに50%→25%→12%→6%→3%(ほぼ真っ暗)となり、ちょうど中間にあたる反射率が25%と12%の中間の18%ということ。なるほど。」